

PROGRAM NOTE

2011年2月12日

HCJB技術宣教師クレイトン・ ハワードさんの生涯

HCJB技術宣教師で、短波放送やハム無線家の間で親しまれてきたクレイトン・ハワードさんが1月27日、アメリカ・オハイオ州で92年の天寿を全うされました。

*"I heard
HCJB on
Easter Sunday
of 1940 while
inaugurating
a new 10-
kilowatt
transmitter"*

クレイトンさんが生まれたのは中国大陸広東州で両親はキリスト教宣教師でした。父親は昆虫学者、母親は生物学者だったので、中国の大学で教鞭をとったり、中国政府の要請で絹繊維の質向上の研究プロジェクトにかかわったりしました。その後、両親がアメリカの大学に招聘されて帰国

することになり、当時9歳だったクレイトンさんはシカゴ郊外にある大学付属の小学校に移り、小さい時からラジオや電気部門に興味をもっていたので、最終的には、シカゴ大学で物理の学位を取得して卒業します。

クレイトンさんが22歳のときのことでした。南米エクアドルのキリスト教放送局HCJBに新しい10キロワット送信機が設置されたというニュースを短波放送できき、自分が学んだ技術もそこで生かせるのではと祈りはじめます。そして一年後には技術宣教師として受け入れられ、太平洋戦争勃発の年1941年（昭和16年）に貨物船でアメリカを発ち、エクアドル・アンデスの山の上にあるHCJB放送局へと向かいます。

1941年から1984までの43年間、クレイトンさんはHCJB放送局の万能エンジニアとして巾広く活躍します。ところが、1931年（昭和6年）に開局した放送局なので使用しているスタジオもアンテナも最新の放送設備とはほど遠く、故障も多く、そのための修理や日頃のメンテナンスは欠かせませんでした。それだけに、機械に精通し労を惜しまず手をさし

のべてくれるクレイトンさんの働きは、急患が飛びこむ救急病院で活躍する医師のようでした。日本語放送も当時は生放送だったのでどんなに助かったかしれません。このような縁の下の力持ち的な人材なしには放送は続けられないのです。おなじみのBCLやHam雑誌でよく紹介される世界最初のキュウビカル・クワッド・アンテナも、考案者はクラレンス・モアさんですが、クレイトンさんも協力を惜しまず完成にこぎつけたといわれています。

ハム無線の免許をもつクレイトンさんは、Dxerのための番組でホスト役もつとめました。週2回放送されたDX Party Lineの番組は22年間もつづき、HCJBでは長寿番組のひとつとなりました。最後の番組が放送されたときなどは、VOR「ロシアの声」が、クレイトンさんの功績をたたえてく生きる伝説の人、アンデスを去る」とコメントしたこともよく知られています。番組制作だけではなく、クレイトンさんはANDEX (Andes DX International) Clubを組織し、機関誌も発行して、Dxerとリスナーとの交流に努めました。クレイトンさんは古いカメラを愛用して大事に使っておられたのが私には印象的でした。技術派肌で



Clayton and Helen Howard

DX Party Line の番組は22年間もつづき、HCJBでは
長寿番組のひとつとなりました。

HCJB日本語放送

新住所：HCJB（日本語放送）1517 N WILMOT RD #298 TUCSON AZ 85712 USA

几帳面で質素な人柄がこのことから偲ばれます。「アンデスの声」では「世界のインターバル・シグナル」の番組を企画して毎週放送してもらいましたが一度も休んだことがありませんでした。

ここで、世界に例のないクレイトンさんの結婚式のエピソードをご紹介します。

クレイトンさんが宣教師になった頃は、今のように飛行機で簡単に外国旅行することはできませんでした。アメリカ中西部のシカゴから南米エクアドルへ行くには、まず、ニューヨークの港から船に乗り、パナマ運河を抜けてエクアドルの港へ上陸し。こんどは車で海拔3千メートル近いアンデスの山の中にある首都キトへと向かわなければなりません。クレイトンさんがHCJBに赴任した一年後。シカゴの大学の後輩であるヘレンさんとの間に結婚話がもちあがりました。ところが、地理的に考えて両家が勢揃いしてお祝いというわけにはいきません。そこで考えついたのが「放送」です。結婚式を番組にして、それを電波にのせることはできないか、ということでした。そうすれば、みんながラジオで聞くことができるからです。やるだけやってみようと、シカゴで花婿抜きで仮想の結婚式が、牧師であるヘレンさんの父親の司式で執り行われました。その様子をすべてレコード盤に録音し、その録音盤をエクアドルへとどけました。待ちましたとばかりHCJBではその録音盤をスタジオに持ち込みました。そして、そのレコードをかけながら、花婿のクレイトンさんは、空白になっている自分の誓いのことばをそこにさしはさんで、とどこおりなく結婚式が終わったのです。遥かなるアンデスの峰を越えてクレイトンさんとヘレンさんの愛の誓いのことばが、短波に乗って大空をかけ抜けぬけていきました。時をおなじくしてシカゴでは、新郎新婦の家族や友人たちがラジオのまわりに集まって4500キロ離れた彼方で行われる結婚式を同時進行でつぶさにききながら、ふたりの新しい門出をこころから祝うことができたのです。世界ではじめての「空飛ぶ結婚式」はとどこおりなく行われました。

なお、クレイトンさんの奥様ヘレンさんも、クレイトンさんと相前後して今年の一月に亡くなられました。子供は2男1女で、長男のチャックさんはHCJB宣教師、長女のルースさんも宣教師で、ご主人のレイ・リーフさんとふたりで日本での宣教から休暇でシカゴにもどってこられたときには我家の地下スタジオでインタビューさせてもらったことがあります。子供さん3人が結婚して、ハワード一家は現在孫11人。曾孫20人という大家族になりました。3代にわたる祝福された宣教師一家です。

2011年2月12日放送原稿より

尾崎一夫記

